

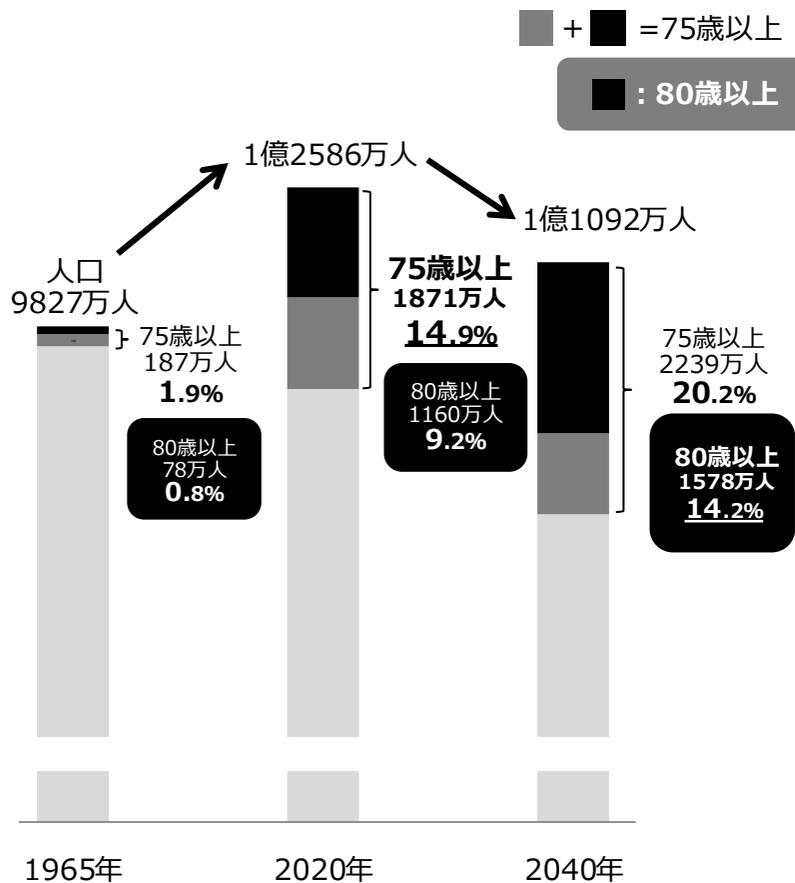
# 「人口増加社会」から『人口減少社会』へ ➡ パラダイムシフト

パラダイムシフト  
(Paradigm Shift)

今までの考え方や価値観が  
180度変わる

経済は1991年のバブル崩壊で“停滞”に、人口は2008年から“減少”に転じた。  
社会や産業の構造を180度変えて、新たな枠組みに転換しないともう立ち行かない。

## 2040年には『80歳以上』が限界値14%を超える



■ 対象となる高齢者が人口の7%を超えて「高齢化社会」(Aging Society)、14%台に入ると「高齢社会」(Aged Society)を迎える。日本は1970年に高齢化社会、1994年に高齢社会になった。7%から14%になるのに要した時間は、先発のフランス/イギリス/ドイツの115年/47年/40年に対して25年。高度経済成長と共に、日本人の寿命は世界一急速に伸びた。

■ 「支えられる対象者が限界値の14%を超えると支えきれない」と言われるが、「少子化」(支える働き手の減少)と「高齢化」(支えられる高齢者の増加)が掛け算で進み、2020年に『75歳以上』が14%台になっている。そして、2040年には『80歳以上』が14%台となる。

□ 2017年日本老年学会・日本老年医学会が連名で『高齢者は75歳から』と提言しているが、『80歳から』としなければならない勢いである。

□ 現50代が70代になる2040年には、少なくとも『高齢者は75歳から』に再定義され、『75歳、できれば80歳まで働く』のが当たり前の社会となっているだろう。そのため70歳でリタイアの考えでは、仕事人生を全うできそうもない。今すぐ再設計すべきである。